



NPO法人 あすみが丘国際交流

Newsletter

NPO 法人あすみが丘国際交流 No.72 2017.10.19 発行 会員数 929 名(2017.3.21 現在)

住所 〒267-0066 千葉市緑区あすみが丘4-1-6 エクレール土気 101

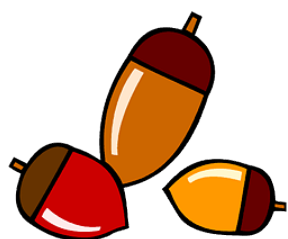
TEL/FAX : 043-294-9551 E-mail : aifs@eastcom.ne.jp

Asumigaoka International Friendship Society = AIFS (アイフス)

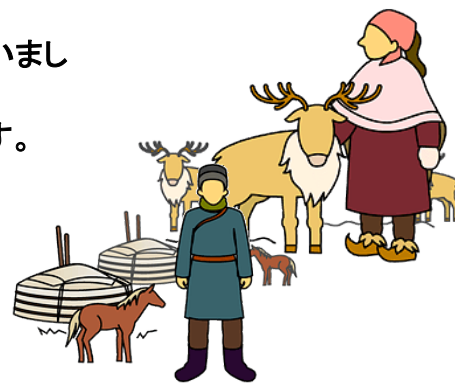
<https://www.npo-aifs.org/> <http://aifs.cocolog-nifty.com/blog/>

この広報誌は、配付ボランティアの方が、全会員宅に手配りしています。

今回より、町内会、自治会に協力を頂き回覧形式でもお届けいたします。

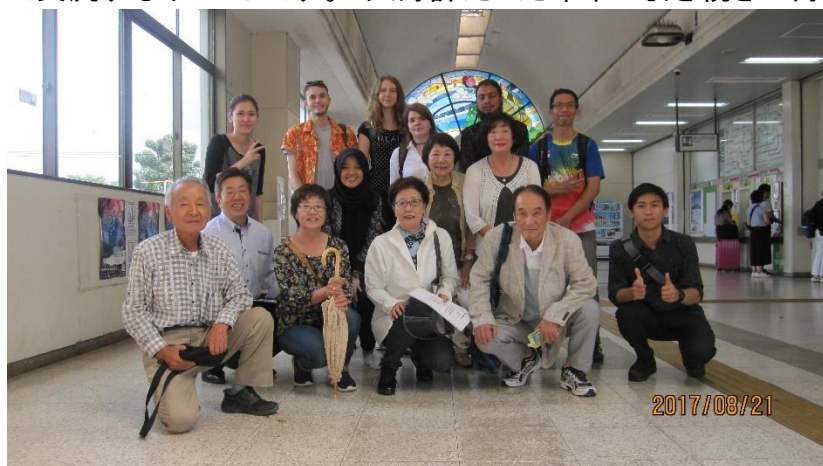


熱中症の心配をしているうちに秋になってしまいました。実りの秋、Halloween、Thanksgiving、豊穡を祝う祭、……土気ではプラザ祭りです。秋が来れば次は冬です。寒い国を思い浮かべるカットにしてみました。



千葉大留学生と土気高校の交流イベント

内容： 千葉大学で勉学に励んでいる外国人留学生が土気高校を訪問し、クラブ活動の紹介などを通して交流するイベントです。大好評だった昨年に引き続き8月21日(月)に実施いたしました。



<プロローグ>

土気駅のロータリーに駐車すると、すぐに携帯が鳴りました。片言の日本語で「チェンと申します。寝坊しました。少し遅れます。」集合時間に遅れるという電話連絡でした。「おっ、さっそくトラブルか。まあ、気楽に行こう。」と自分に言い聞かせました。ロシア、メキシコ、インドネシア、パキスタン、台湾、新疆からの留学生を土気駅で出迎えました。NPO 会員もいっしょに並んで記念撮影。みんな満面の笑顔でした。

<前半>

3台の車に分乗し土気高校へ。まずは、土気高校の先生と生徒代表にあいさつ。留学生10人は、ミルザさん、レオさんなど、愛称を記入した名札を付けました。自己紹介は、しっかりした日本語でした。クラブ活動訪問は体育館でスタート。剣道部の模範演技と、柔道部の乱取り風景を見学しました。柔道部で、女子生徒が男子生徒を見事に投げ倒すと歓声が上がりました。茶道部では、正座してお点前を学びました。抹茶の立て方演習では、笑顔が真剣な表情に変わっていました。ギター部では美しいトレモロ演奏など数

曲を聴きました。パイレーツオブカリビアンなど、お馴染みの曲が流れると、身体がリズムを刻んで左右に揺れていました。

<ランチタイム>

昼食は、高校近くのレストランで頂きました。留学生同士で初対面の人が多かったので、趣味などを含めた自己紹介を行ったところ、たいへんに盛り上がりました。少し、予定時間をオーバー。



<後半>

書道部では、お手本をみながら漢字を書きました。部員の優しいアドバイスもありとてもきちんとした漢字が書けました。「うちわ」に好きな漢字を書き、それをおみやげにいただきました。吹奏楽部の演奏は圧巻でした。整列した25名のバンドの正面で大迫力のブラスサウンドを聴きました。ものすごい音の圧力を体感しました。アンコールにも応えていただきました。生徒会主催の交流会では、英語で楽しい質疑応答がありました。なぜ女子生徒のスカートは短いのかと

質問がでると、「かわいいから」と笑いながら答えていました。一日の勉強時間の質問について、留学生が3時間と答えたのに対し、男子生徒が5分と答えたので爆笑が起きました。(本当だったら問題ですが…)

<エビローグ>

留学生の皆さんは、とても明るく、礼儀正しく、おかげさまで素晴らしい同世代交流ができました。留学生の皆さんに書いていただいた感想文の中に、「他のクラブ活動も見たい」、「ランチも高校生と一緒によかった」、「実際に体験させてもらえるのはうれしい」などがありました。今後に生かしたいと思います。また、土気高生は、夏休みの中、いろいろ工夫を凝らして準備いただきました。日頃のクラブ活動の成果をいつもと違うゲストに対し発揮でき、貴重な体験ができたのではないかと思います。異なった文化



を持つ若い学生同士の生の交流は、一生の思い出になったのではないかと思います。土気駅で輪になって、関東一本締めの手拍子でお開きにしました。

シーユーアゲイン、再見、そして、さようならまた会いましょう。

追記)本イベントの開催にご支援・ご協力いただいた、千葉大学学務部留学生課、土気高校担当教職員、およびNPO会員の皆さんに感謝申し上げます。

Reported by 内藤一芳



双葉外語学校留学生のホームビジット

双葉外語学校の留学生が西井さんの家庭を7/29(土)に訪問しました。子供さんたちも含めいっしょに楽しい一日を過ごされたようです。西井さんにレポートしていただきました。



7/29(土) 我が家で中国、韓国、台湾、日本の交流がありました。

私の知り合いの女子高生2人も加わり、一緒にカレーライスを食べたり、書道、折り紙をしなが
らいろいろな話をしました。

日本の女子高生から

Q1.日本に来て驚いたことは？

Q2.最初に覚えた日本語は？

Q3.日本食で好きな食べ物は？

留学生達（すべて日本語で）

A1.日本の街中はゴミがなくてきれい。

A2.関西の友達がいる「めっちゃ」をよく使う。

A3.神戸牛、牛カツ、お寿司（サーモン）、うなぎ

牛カツは私も女子高生たちも食べたことがなく興味津々でした。

特に印象的だった話は、中国、韓国ともに高校生の学校生活は朝6時から夜9~10時まで勉強漬けで部活などはないそうです。「大学の名前」がとても大事で親子ともに受験に必死。それに比べて日本の学生はゆとりがあっていいなと思うとのこと。初めて生の学生事情を聞いて、現役高校生たちも考えさせられることがあったようです。

最後はBOOK-OFFで好きなCDやアニメ本を買ってから、カスミでプリクラ、ゲームセンターで太鼓の達人を楽しみホームビジットを終えました。

言葉ができなくても心は通じ合える！と全員が感じました。謝謝、カムサハムニダ、thank you、ありがとうございました。

(reported by 西井 有子)



くらしのほんごくらぶ

◎ 活動報告「七夕」平成29年7月11日(火)10時~12時 あすみが丘プラザ 参加者10名

恒例の七夕の行事に、日本語学習者4名(中国、スリランカ、フィリピン、ベトナム)と会員6名が参加しました。参加者は短冊に「幸せな人生を送れますように」「世界が平和に」などの願いごとを短冊に書いて、七夕竹に飾りました。

昨年と同様に、プラザでサークル活動している新舞踊「五月会」(さつき会)7名の皆様のご厚意により、学習者に浴衣を着付けし、「真室川音頭」など3曲の日本舞踊をご披露していただきました。その後、七夕に関する俳句を作り、日常のくらしをテーマに、意見交換をしました。

学習者は浴衣、日本舞踊、俳句、七夕などの盛り沢山の日本の伝統文化・行事を体験し、大喜びでした。

学習者・会員の作った俳句

- 七夕に 日本のおどり 楽しいな
- 中国も 七夕の夜 願いごと
- 七夕の空に 願いを打ち上げる
- 七夕に 何年振りかの 浴衣かな



第2回会員・ボランティア交流会の報告

7月9日(日) 10:00～12:00 於いて あすみが丘プラザ 出席者 19名

出席した会員の中には、開発当初から住んでいる人、NPOの前身組織に携わっていた人、自治会や社会福祉協議会で活躍されている人、NPOが現行の体制になるまでの経緯を詳細に知っている人等の自己紹介があり様々な熱い思いを語り頂き有意義な意見交換でした。今年度は少人数でスタートした理事会ですが皆さまの意見を参考にしながら今後の活動に生かして行きたいと思えます。



活動案内

あすみが丘プラザまつり

日時 11月26日(日) 10:00～15:00

場所 あすみが丘プラザ駐車場

- 内容
- ・世界の食文化紹介コーナー
 - ・煎りたて、挽きたて、淹れたて、のコーヒーコーナー
 - ・子供ゲームコーナー

当日及び事前準備のお手伝いをいただける方、AIFS事務所までご連絡ください。

理事会便り

第10回理事会開催日程

日時: 11月18日(土)9:00～11:00

場所: AIFS事務所

会員の方はAIFS事務所で傍聴できます。
なお、傍聴される方は、事前に出席日時を事務所までご連絡くださるようお願いいたします。

◆転勤・転居の際のお願い

入会届の住所から変更となる場合は、必ず届け出をしてください。所在不明が確認されてから1年経過しても届け出がない場合は、退会扱いにさせていただきます。

編集後記

お恥ずかしい話、私はフリーマーケットというのは アメリカに住んでいる間中 *free market* だと思っていた。多くの人が好き勝手に家庭から不用品を持ち寄って売り買いする場、自由市場みたいに思っていたわけある。それが日本に帰国してのある日、古物市のことをどうして「蚤の市」と呼ぶのだらうと思って辞書をチェックした。いくら古着とはいえ、「蚤の市というまで開き直るか?」という疑問である。ここで初めて *free market* ではなく *flea market*=蚤の市だとわかって全く驚いた。「蚤の市」*flea market* は、フランス語 *marché aux puces* の訳だということであるから、遠い昔から世界はつながっていたのである。

金井章男